

市長の政治姿勢

問 市政運営に対する3年半の総括と2期目に向けた所信は。

答 平成21年9月に市民各大洲市長の職に就いてから3年半が経過しました。この間、市政運営では、緊急雇用対策事業の実施、企業誘致の環境整備を行うなど、景気、雇用対策に取り組むとともに、防災行政無線施設の整備、小学校統廃合計画と校舎耐震対策など、当面する課題への対応など、市民の皆様の負託にお応えするべく取り組んできました。

ハード面では、休日夜間急患センターの開設、学校給食センターの供用開始、学校施設の耐震対策など順次実施し、ソフト面では、〇級ご当地グルメコンテスト、大洲ええモンセレクション認定制度、産業フェスタの事業を展開することができました。また、がんばるひと応援事業により、自主的な活動を応援することで地域活性化を図っています。

さらには、学童保育の実施、小・中学校入院費無料化などの施策にも取り組んでいます。一方、集中改革プランの着実な実施による財政の健全化を図ってきた結果、財政運営も明るい見通しとなりました。

2期目については、後援会をはじめとする多くの市民の皆様方のご支援が得られるなら、今後も責任を持ってその任に当たりたいとの思いに至りました。子供たちが自分の夢をこの大洲市の中で実現できるように、将来に夢と誇りを持てる活力ある大洲市を目指して、引き続き、新しい可能性を追い求めるチャレンジ、市民が力を合わせて頑張るコラボレーション、新しい時代に合った仕組みづくりのチェンジという3つのCのまちづくりを信条として、歴史や自然を生かした市民参加のまちづくり、未来を託す子供を育てるまちづくり、元気で活力あるまちづくり



〇級グルメキャラクター「〇級くん」

くり、安全で安心できるまちづくり、この4つのまちづくりの目標を掲げ、粉骨碎身努力していく覚悟です。

財政問題

問 平成25年度の歳入歳出をどのように捉えて編成したのか。

答 国の新年度予算については、過去最大の約92兆6,000億円となっているものの、地方交付税は昨年度より3,921億円減少し17兆624億円となっています。これにより、当市の平成25年度当初予算は厳しい財政運営を強いられるものと危惧しています。

当市の歳出については、一般会計予算規模は縮小しており、また、これまでの職員の定員適正化計画及び公債費負担適正化計画の実施により人件費や公債費も年々減少しています。しかしながら、扶助費、特別会計繰出金、物件費などは年々増加している状況です。このような中、本市の当初予算の編成方針について



〇級グルメキャラクター「三ツ星ちゃん」

は、財政の健全化を最優先としながらも、地域の活性化につながる、がんばるひと応援事業補助金、産業フェスタ、〇級ご当地グルメコンテスト、大洲ええモンセレクション認定制度などの施策に財源の重点配分を行うことで、引き続き元気で魅力あるまちづくりに力を注いでいきたいと考えています。

また、治水対策については、市として浸水被害の軽減を図るための減災対策を取りまとめ、応急的な対策を行うこととしています。さらに、自主防災組織が実施する津波、浸水災害時における避難路の整備に係る経費に対し新たに助成制度を創設するなど、市民の皆様が安心して安全に暮らすことができるまちづくりを目指して、本市の様々な課題に対応すべく必要な対策を講じることとしています。

生活保護費

問 不正受給に対してどのような防止対策を講じているのか。

答 生活保護費の不正受給のケースには、元来受給資格要件を満たしていないにも関わらず申請して保護費を受給した場合や、保護費を開始後、年金や保険金などの収入があったにも関わらず収入の申告を怠ったことにより、実際に支給されるべき金額以上の保護費を受給した場合等が考えられます。

当市では、今年2月末までに合わせて12件、約400万円の不正受給が発生しており、その内訳は、就労収入や年金収入、保険金の収入未申告によるものがほとんどです。不正受給が発覚した場合には、返済計画に基づき毎月徴収金を請求しているところですが、不正受給の防止対策としては、申請時の面接において、経歴などを詳細に聞き取り、生活保護法に基づく金融機関調査や資産調査などを行ったりと、ケースワーカー